

「キャリア形成支援セミナー」 〈報告〉

「キャリア形成支援セミナー」講演動画配信

日時 : 2020年11月25日(水) 13:00~14:30
テーマ : 「アメリカのスポーツ界における性的虐待と言語の悪用」
The Language of Harm :What the Nassar Victim Impact Statements
Reveal about Abuse and Accountability
講師 : ジェイミー・アール・エブラムス知的生活副学部長、法律学教授
ブランダイズ・ロースクール ルイビル大学
参加人数 : 7名(教職員・学生)

11月25日(水)に、「キャリア形成支援セミナー」をZOOM講演動画配信で開催しました。

本セミナーは、徳島大学を代表機関とする令和2年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」において女性研究者の上位職への登用に向けた取り組みに基づいて実施される事業として開催したものです。

講師はブランダイズ・ロースクール ルイビル大学 ジェイミー・アール・エブラムス知的生活副学部長、法律学教授による講演でした。

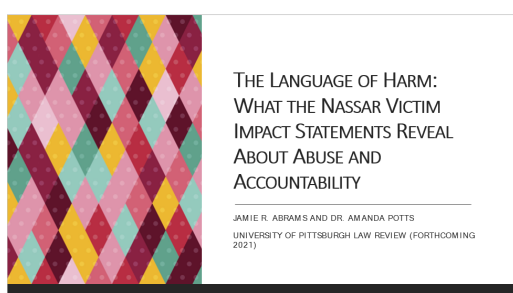
<要旨>

ラリー・ナッサーの刑事判決で法廷に提出された140件以上の被害者のインパクトステートメントを検証している。ラリー・ナッサーは米国体操協会の医師であり、ミシガン州立大学の職員としてエリートアスリート、主に体操選手を治療していた。ナッサーは、ミシガン州で児童ポルノと第一級の違法な性的逸脱行為の罪で有罪を認めた。彼の判決は、被害者が彼の行為の被害及び裏切りを説明するインパクトステートメントを発表したことで、世界的に注目された。コーパスに基づく談話分析を用いて、被害者がナッサーとは何者か(医者、怪物、友人)、ナッサーが何をしたか(虐待、暴行、児童性愛、「治療」)、そして被害者の受けた被害(痛み、傷、裏切り)を検証した。

以下、セミナーについての参加者からの感想(アンケート一部抜粋)

アンケートでは、「非常に参考になった」20%、「参考になった」80%という結果でした。

- 本セミナーについて印象に残った点
 - ・女性が大変な被害にあった上、訴えることが困難だったこと。
 - ・被害者インパクトステートメントの検証、加害者の呼び名の違い。
 - ・法制度が使用している言語と法律用語が一致していない事。
- その他のご意見等
 - ・日本と欧米の法制度、司法裁判制度の違いを今後も勉強してみたい。性的被害者、加害者のケア・支援についても知りたい。



▲ Prof. Jamie R. Abrams